

A photograph of a modern house at dusk. The house features a prominent gabled roof with exposed wooden trusses and rafters, which are illuminated from within, casting a warm orange glow. The exterior walls are clad in horizontal wooden slats. A balcony with a wooden railing is visible on the upper floor. A small tree stands in the foreground, and a paved area leads to the entrance. The sky is a deep blue with wispy clouds. The overall mood is serene and modern.

建築人

11

2018



建築人

11
2018

目次

2	大阪ホンマもん
4	インフォメーション・事業案内
6	動静レポート
7	Topics
8	Gallery 建築作品紹介 京都女子大学 東山寮（増築・改修） 設計 日建設計 施工 西松建設
	大日本住友製薬株式会社 再生・細胞医薬製造プラント SMART 設計 竹中工務店 施工 竹中工務店
	TROIS BOIS 設計 置塩淳夫建築設計事務所 施工 栗本建設工業 水仙福祉会 すいせん 設計 井上久実設計室 施工 ヒロタ建設
13	記憶の建築 松隈 洋 金沢工業大学本館 一九六九年 語りかけ、包み込む骨太な空間
14	建築の射程 辻村修太郎 「やってみようからはじめてみる」 八幡市男山地域再生のためのプラットフォームづくりの実践
18	理事会報告 建築相談室から 編集後記

研修部門の活動紹介

研修部門長 横田 友行



研修部門には、研修委員会と二級木造委員会と制度推進委員会という三つの委員会があります。

研修委員会は、設計・設備・法令分科会と構造・施工分科会という二つの分科会から成っており、それぞれの分科会で講習会および見学会の企画を行なっています。講習会と見学会のテーマとしては、法改正に沿ったものや実践に即したもののや最新技術に関するものを取り上げるようにしています。また、今年度から大阪府の要請に応えて、「建設工事の安全・健康確保講習会」を九月から四回開催して、大阪府工事入札（実績申告型）の評価点に加算できるCPD単位を提供しています。今後の企画としては、「省エネ実務講習会＋コイズミ緑橋ビル見学会」、「木造ホテル（志摩観光ホテル・奈良ホテル）耐震改修」、「中大規模木造建築」、「新南海会館」などを予定しています。

二級木造委員会は、住宅を含む小規模木造建築物の講習会および見学会の企画を行なっています。制度推進委員会は、CPD制度の普及活動を行なっています。昨年度の定時総会からは、多くのCPD単位を取得された個人と社員教育に活用された企業、および多くのCPD認定講習会を開催されたプロバイダーを表彰しています。今後とも宜しくお願い申し上げます。

大阪ホンマもん解説

写真 田籠哲也 文 牧野隆義

今年は台風や豪雨などの災害が度重なり中止となった祭りなどもあった。とある花火大会は、警備体制の維持が難しく断念したもので、昔ながらの方法だけでは伝統的なものを続けるにいく状況が出てきている。

一方、今やだんじり祭と言えば外国人にも大変な人気で多くの観客が訪れる。関西各地で行われるだんじり祭の中でもメジャーなのが「岸和田だんじり祭」だ。

毎年九月に行われるだんじり祭は、岸和田市北西部及び岸和田城下とその周辺が舞台で、元禄一六年（一七〇三年）に岸和田藩主岡部長泰公が、京都伏見稲荷を城内三の丸に勧請し、五穀豊穡を祈願した稲荷祭がその始まりと伝えられている。

地車（だんじり）は、祭礼で用いられる屋台・山車の一種で、関西地方で多く見られる。二つに分かれた破風屋根を持つ曳き山で見事な彫刻が組み込まれ、刺繍幕や提灯やぼんぼり、旗などの流麗な装飾が施されている。材種には、主に櫟が用いられ、コマ（車輪）部分には松が用いられている。装飾以外には釘は使用されず、宮大工の技術が代々受け継がれ用いられている。

高速で走行し、停止せずに辻をいっしょに回りきる「やり回し」に見られる派手な部分だけがメディアで取り上げられることが多いが、この技術の伝承があるからこそ続けられる。

年々、大工職人の数が減り続けている。私たちも大切なものに気づき、伝承すべきことがあると思う。

平成30年度近畿建築士セミナー
「大阪長屋の魅力とまちのリノベーションを学ぶ」
11/10 CPD2単位(予定)

大阪長屋の活用事例と長屋暮らしの魅力を公開する、イベント「第8回オープンナガヤ大阪2018は、オープンナガヤ大阪2018実行委員会、大阪市大長屋保全研究会が11月10日、11日の2日間実施するものです。このオープンナガヤ大阪の見学と、3人の専門家による講演会を実施します。

主催 近畿建築士会協議会
日時 11月10日(土) 15:30～18:30
会場 豊崎長屋主屋 大阪市北区豊崎1丁目最寄駅 大阪メトロ谷町線中崎町駅
講演1 (仮称)大阪ナガヤリノベーション～大阪市大モデル～
大阪市立大学大学院准教授 小池志保子
講演2 (仮称)大阪ナガヤリノベーション～Re:Toyosaki～
coil 松村一輝建築設計事務所主宰 松村一輝
講演3 (仮称)SAORI豊崎における福祉
SAORI 豊崎長屋 金野哲哉
定員 40名
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
※交流会費は別途4,000円程度予定

京都織物の伝統・文化に触れる
株式会社川島織物セルコン
工場&織物文化館見学会
11/12 CPD2単位

京都の伝統的な織物技術を今も継承しつつ、新たな織物文化を発信されておられる「株式会社川島織物セルコン 本社 市原事業所」と隣接する「織物文化会館」の見学会です。

工場見学では、伝統的な手織り技法やインテリアファブリックにおける近代的な生産工程をご覧頂けます。また、織物文化会館は川島織物セルコンが手掛けた織物・室内装飾などの織物の魅力やモノづくりのこだわりを紹介しています。

日時 11月12日(月) 15:00～17:20
会場 川島織物セルコン 本社 市原事業所
定員 40名
参加費 会員1,000円 会員外1,500円
※懇親会費は別途

「どうなる！これからの建築業界とTPP」
11/15 CPD2単位(予定)

建築業界も建設業・設計事務所・メーカーに関わらず国際化は避けていけない現状です。その最初の入口であるTPPの問題を学びます。TPPとは何なのか、我々どう関係しているのかを語って頂きます。そして我々の展望は？

日時 11月15日(木) 18:00～20:00
会場 大阪府建築士会会議室
講師 ジェトロ大阪本部 堤 章氏
定員 50名
参加費 会員1,000円(資料代含む) 会員外1,500円
※終了後講師を囲み懇親会を開催します。
別途参加費3,500円

平成30年度文化遺産総合活用推進事業
「重要文化財中之島図書館から文楽のすゝめ」
11/17、11/20、11/22

文楽セミナーと体験教室です。3日間とすべて同じ内容になっています。

日時 11月17日(土)、20日(火)、22日(木) 18:30～20:00(受付18:00)
第1部(30分)「文楽とは？」
豊竹咲寿太夫(解説)
第2部(60分)「義太夫節体験教室」
竹本織太夫(太夫)／鶴澤清志郎(三味線)
参加費 1,500/1回(要予約)
会場 大阪府立中之島図書館本館 3階レンタルスペース2
詳細は本会ホームページをご覧ください。

平成30年度文化遺産総合活用推進事業
「文化財の活用を通して保存を学ぶ」(全6回)
11/24、12/4、12/6、12/16、1/13、1/26

毎回異なる国登録有形文化財の会場で「まちあるき」と「ワークショップ」を行う体験型の講座です。また其々の文化財所有者からは文化財の保存及び活用の取組事例や課題などを伺います。

①11/24(土) 寺田家住宅:拓本制作
②12/4(火) 寺西家住宅:ハーバリウム
③12/6(木) 青山ビル:書画篆刻
④12/16(日) 兒山家住宅:ミニ門松製作
⑤19/1/13(土) 奥野家住宅:能鑑賞
④19/1/26(土) 岩根家住宅:甘酒製作
※時間:13:00～16:30
受付は各回開始30分前
(第3回のみ18:30～20:30)
募集 各回24名(先着順・事前申込制)
参加費 各回1,600円
※詳細は本会ホームページをご覧ください。

建築士の会「東大阪」「やかしわら」共同開催
わくわく探検(駅前シリーズ)第18弾
&おとなの社会見学
生駒山麓から雄大な河内平野を望むー石切編ー
11/23 CPD3単位

今回は、近鉄石切駅を出発して、地産地消で河内木綿をつくり続けるはたおり工房見学後、旧生駒トンネル、大龍禅寺を経て、旧河澄家住宅の見学、終点の石切神社までの約5kmの行程です。はたおり工房さんだからこそこの建築とのつながり等、ここでしか聞けない貴重なお話をきっと時間を忘れて過ごせることでしょう。恒例の賞品が当たるクイズも御用意、終了後には懇親会も企画しています。

日時 11月23日(金・祝) 13:00～16:30
懇親会17:00～
集合 近鉄奈良線石切駅 南出口
解散 石切神社
募集 30名(申し込み先着順)
参加費 会員・一般1,000円 学生500円
懇親会参加費 4,000円程度

和風建築にかかせない仕上げ材／左官職人さんの話
11/24 CPD2単位(予定)

地域委員会建築士の会南河内では和風住宅建築についての講習会を開催します。今回は左官屋さんをお招きし、伝統工法の仕上げ材や外壁改修による下地材の考え方、左官工事の検査チェックポイント、職人の育成などについて解説していただきます。

日時 11月24日(土) 受付18:00～講習会18:30～20:30
会場 松原ゆめニティプラザ3階研修室(近鉄河内松原駅南)
定員 30名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円 学生500円

環境型都市づくり講演及び大阪府立大学研究推進機構植物工場研究センター視察
～建築やまちづくりに携わる建築士として環境型都市づくりを勉強します～
11/30 CPD3単位

少子高齢化の進展や地球規模での環境問題等を背景に、成長型都市づくりから成熟型都市づくりへとパラダイムシフトが求められます。そこで、都市やニュータウンの再生、都市農地の活性化、都市における植物工場の展開の可能性に関わる研究に取り組まれている大阪府立大学の増田名誉教授に「環境型都市づくり」について講演頂くとともに、大阪府立大学研究推進機構植物工場研究センターを視察します。建築やまちづくりに携わる建築士として都市における新たな役割を探ります。

日時 11月30日(金) 14:00～15:45 環境型都市づくり講演 15:45～17:00 植物工場研究センター視察
集合 13:45(時間厳守) 大阪府立大学白鷺門
募集 30名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外2,000円

大阪府建築士会+JIA近畿支部合同企画
追手門学院新キャンパス現場見学会
12/6 各回CPD2単位(予定)

JR総持寺駅から徒歩圏内に整備中の追手門学院新キャンパス(2019年4月オープン予定)の現場見学会を行います。設計・施工担当者による案内により、新キャンパスの計画コンセプト、先端の設計・施工技術を学びます。

日時 12月6日(木) 受付13:00～
見学 ①13:30～ ②15:30～
(申込時に①②どちらか希望時間を選択してください)
集合 (株)三菱地所設計・現場監理事務所(詳細場所は参加証に記載予定)
定員 最大60名(各回30名まで)
参加費 会員500円 会員外1,000円

ちょっと知りたい建築セミナー
庭づくり入門!「テラリウム体験」～ガラスの中の小宇宙～
1/26 CPD3単位(予定)

以前から好評の、(株)荒木造園設計の敷地内見学と、ガラス瓶の中の庭づくり「テラリウム体験」セミナーです。同社の創設者荒木芳邦氏は、大阪万国博松下館庭園、花と緑の博覧会政府苑、リーガロイヤルホテル中庭などを設計しランドスケープという言葉を確認させたとも言われる造園家です。池田市にある本社敷地内は、氏が造園を介して伝えたかった「楽しさ、驚き、喜び、高ぶり、安らぎ」が見事に具現化されています。見学でその庭づくりの神髄に触れた後、「ガラスの中の小宇宙」と注目されている「テラリウム」を通して庭づくりを体験します。屋久島の流木と苔など準備した材料を使い、完成した各自の作品をお持ち帰りいただきます。

日時 1月26日(土) 13:30～16:00
会場 (株)荒木造園設計(池田市鉢塚2-10-11)
講師 (株)荒木造園設計 造園設計担当者
参加費 会員3,500円 会員外4,000円
※基本材料費1つ分を含む
定員 30名(申込み先着順)

2018年建築関係4団体主催の合同忘年懇親会
12/14

恒例行事の建築関係4団体主催の忘年懇親会を本年も開催致します。多数のご参加お待ちしております。

共催 大阪府建築士会(当番会)・大阪府建築士事務所協会・日本建築家協会近畿支部・日本建築協会
日時 12月14日(金) 18:00～20:00(受付17:30～)
会場 太閤園ガーデンホール
会費 5,000円
申込締切日 11月16日(金)
※参加ご希望の会員の方は、参加申込書を本会HPよりダウンロードし、ご記入の上、本会にFAX・メールでお申込下さい。
定員 300名
※名刺交換会を致しますので、名刺を多数お持ち下さい。

平成31年在阪建築15団体合同新年交礼会
1/4

毎年恒例の在阪建築15団体による合同の新年交礼会です。

日時 1月4日(金) 15:00～16:00
会場 シエラントホテル大阪4階「浪速の間」
大阪市天王寺区上本町6-1-55
会費 3,000円
申込締切日 11月30日(金)
※12月4日(火)以降のキャンセルについては、会費全額のご負担をお願い致します。

Sponsorship

建築士会からのお知らせ

既存建築物耐震診断等の評価・評定

本会では、「建築物の耐震改修の促進に関する法律」の改正に伴い、建築構造の学識者や実務者で構成する「建築物耐震評価委員会」を組織し、平成26年1月より建築物耐震評価業務を実施しております。

不特定多数が利用する施設や沿道建築物など、申込者が検討した建築物の耐震診断及び耐震補強計画について、専門的観点のもとに審査・審議を行い、妥当であると認める申込案件に対して評価書を交付します。

スピーディな審査を心掛けておりますのでどうぞ活用ください。

(業務内容)
耐震診断報告書の審査、評価
耐震補強計画書の審査、評価等
(対象建築物)
公共・民間等の建築種別、用途、規模、構造種別は問いません。また、他府県の建築物も対象としております。

(会員特典)
申込者又は診断等実施者が本会会員の場合は、評価手数料の10%割引があります。
詳細は、本会ホームページをご覧ください。

建築士会会員受講料全額補助
大阪府住宅省エネルギー設計者講習会
11/13、11/27、12/7、12/21、1/18、1/24
CPD各6単位

国土交通省が新省エネ基準を2020年までに段階的に新築住宅への適合を義務付けることに先がけて、設計者に木造住宅の省エネ技術の習得をしていただく講習会です。

■詳細計算ルート
日程 ①11月13日(火) ②11月27日(火)
時間 9:45～16:45(各回共)
会場 大阪府建築健保会館6階ホール(各回共)
大阪市中央区和泉町2-1-11
定員 120名(各回共。申込先着順)
受講料 会員 本会が全額補助(各回共)
会員外1,000円(各回共。テキスト代含む)

■簡易評価法(仕様ルート・簡易計算ルート)
日程 ①12月7日(金) ②12月21日(金)
③1月18日(金) ④1月24日(木)
時間 9:40～16:10(各回共)
会場 大阪府建築健保会館6階ホール(各回共)
大阪市中央区和泉町2-1-11
定員 120名(各回共。申込先着順)
受講料 会員 本会が全額補助(各回共)
会員外1,000円(各回共。テキスト代含む)

※申込方法 専用のWEBからお申込してください。
HP [\[省エネ講習会\]](#) [\[検索\]](#)
※詳細は今月号同封の案内チラシをご覧ください。

大阪府知事指定講習
「建設工事の安全・健康確保講習会」
11/19、12/11 CPD各3単位

本講習会は、設計、施工等の各段階における安全・健康確保の措置や、建築労働者の意識向上を図る取組み方法についての講習を行い、労働災害防止に関する建築技術者の安全と健康を確保することを目的としており、テーマを変えて4回実施します。また、本講習受講により取得された現場管理技術者のCPD単位は、大阪府公共建築室が発注の条件付一般競争入札(実績評価型)において、H31年度から評価点を取得できます。

日程・テーマ
①11/19(月) 各種届出書類、土留・型枠支保工・鉄骨工事の安全対策など
②12/11(火) 仮設計書のポイント、職業病予防、解体工事の安全対策など
時間 13:30～17:05
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
講師 建設業労働災害防止協会及び①大日本土木㈱、②㈱竹中工務店の安全管理担当者
定員 各回100名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員3,000円/回
後援団体会員4,000円/回
一般5,000円/回

建築士法にもとづく法定講習会
平成30年度建築士定期講習
1/30、2/21、3/18、3/29 CPD各6単位

建築士法の規定により、建築士事務所に所属するすべての建築士は3年以内ごとに定期講習を受講しなければなりません。本年度は平成27年度に本講習を受講された方や、建築士試験に合格された方が対象となります。未受講者は懲戒処分の対象となりますので必ず年度内に受講してください。

日程・会場・定員
1/30(水) 大阪府建築健保会館 90名
※2/21(木) 大阪国際会議場 300名
3/18(月) 大阪国際交流センター 200名
3/29(金) 大阪府建築健保会館 90名
時間 9:25～17:00(各講習日共)
受講料 12,960円(消費税込。事前振込)
申込書配布場所

大阪府建築士会及び大阪府建築士事務所協会事務局又は、建築技術教育普及センターHPからダウンロード(平成27年度受講者には、直接申込書を郵送しています。)

申込方法
上記事務局へ持参又は簡易書留による郵送。
受付場所(送付場所)
※印の日程 大阪府建築士会事務局
※印以外の日程 大阪府建築士事務所協会事務局

建築技術教育普及センターHPからWEB申込みも可能です。
<https://jaeicktosyu.jp/jaeicteikikosyu/>
注) 各回定員に達し次第、受付を終了します。

平成30年度監理技術者講習
(監理技術者以外の方も受講可能)
11/27、1/18、2/6、3/6 CPD各6単位

本講習会は建設業法に基づく法定講習であり、建築に特化したテキストを使用し、経験豊富なベテラン技術者の講師による解説と映像で、実務に役立つ情報を提供いたします。なお、監理技術者以外の建築士や技術者の方も受講が可能です。日頃の工事監理業務に役立ちますので、ぜひ受講下さい。

日程 11/27(火)、1/18(金)、2/6(水)、3/6(水)
時間 8:55～17:00
会場 大阪府建築士会会議室
定員 各回30名(定員に達し次第締切)
受講料 WEB申込み9,500円
郵送申込み10,000円
申込 日本建築士会連合会ホームページよりお申込みください。
<http://www.kenchikushikai.or.jp/torikumi/news/2015-07-28-2.html>

大阪府知事指定講習
平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《一般診断法》
12/5 CPD5単位

本講習会修了者は、大阪府及び府内市町村の木造住宅耐震診断等の補助を受けることができる技術者として名簿に掲載します。(本講習会は、国土交通大臣登録講習ではありません。)

日時 12月5日(水) 10:00～15:50
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 各100名(定員になり次第締切)
受講料 会員5,000円 会員外9,000円
テキスト代 7,200円(2012年改訂版木造住宅の耐震診断と補強方法)

大阪府知事指定講習
平成30年度既存木造住宅の耐震診断・改修講習会《限界耐力計算法》
1/29 CPD6単位

既存木造建築物の限界耐力計算法による耐震診断は、一般診断法が建物の強度を評価するのに対して、建物の強度だけでなく、減衰性能も評価することができる診断法で、伝統構法の本造建築物の耐震診断等に用いられます。

日時 1月29日(火) 9:30～16:00
会場 大阪府建築健保会館6階ホール
最寄駅 地下鉄「谷町四丁目」下車
定員 120名(定員になり次第締切)
受講料 会員6,000円 会員外8,000円
テキスト代 4,000円(大阪府木造住宅の限界耐力計算による耐震診断・耐震改修に関する簡易計算マニュアル)

建築士法にもとづく建築技術講習会
建築物省エネ法実務講習会・環境建築見学会
12/10 CPD3単位(予定)

本講習会は、設計や申請手続きに携わる実務者の方々向けに、省エネ適判や工事監理・完了検査のポイント、大阪府内建築行政連絡会で発行する省エネ基準に関する様式集やQ&A等を解説する講習会となっております。講習後は、会場であるコイズミ照明R&Dセンターの設計者から省エネ技術事例を紹介頂き、実際に館内を見学させていただきます。コイズミ照明R&Dセンターは大阪府の環境緑化関連表彰をトリプル受賞されています。

日時 12月10日(月) 14:00～17:15
会場 コイズミ照明R&Dセンター
大阪市東成区東本町2丁目3-3
定員 80名(定員に達し次第締切)
受講料 建築士会会員 4,000円
後援団体会員 5,000円
一般 6,000円

建築士法にもとづく建築技術講習会
中大規模木造構造設計講習会
12/21 CPD4単位(予定)

「公共建築物の木材利用促進法」が2010年に施工され、低層の公共建築物などは原則として木造化、木質化することが義務付けられましたが、なかなか推進されていないことが現状です。本講習会では東京大学大学院教授の稲山正弘氏を講師にむかえ、より実務的な内容について講習を行います。

講義内容例
・中大規模木造に関わる防耐火基準と構造基準の要点
・木造で防火壁をつくる場合の納まり
・木造構造設計時に参照すべき本 等
その他の講義内容はチラシをご確認下さい。
日時 12月21日(金) 13:00～17:05
会場 大阪工業大学梅田キャンパス
セミナー室201・202

定員 100名(定員に達し次第締切)
受講料 2,000円(テキスト代は含みません)
テキスト 「中大規模木造建築物の構造設計の手引き」を講習会特別価格にて販売します。詳細はお申込時に確認いただくか、事務局までお問い合わせ下さい。

マンション大規模修繕における建築士の役割
新築時の重大な建物欠陥と大規模修繕工事
11/7 CPD2単位

マンション大規模修繕工事の役割と位置付け、新築時の重大な建物欠陥と大規模修繕工事(タイル浮きの危険除去など)について、公開講座を開催します。

日時 11月7日(水) 18:00～20:30
①大規模修繕工事の役割と位置付け
②新築時の重大な欠陥修復を含む大規模修繕

会場 大阪府建築士会会議室
募集 50名(申込先着順)
参加費 会員1,000円 会員外1,500円

動静レポート

会長動静

- 9/26 大阪府収用委員会
- 9/28 正副会長会議（連合会）
- 10/ 1 大阪都市景観建築賞審査委員会
- 10/5～10/8 北海道建築士会全道大会
- 10/ 9 大阪府収用委員会
たかつガーデン 70 周年記念式典
- 10/10 羽曳野市長、藤井寺副市長面談
- 10/12 運営委員会
- 10/15 貝塚市との空家対策協定締結式
会員増強会議（連合会）
- 10/16 東大阪市長面談
- 10/17 近畿建築士会協議会
- 10/17～10/20 日韓中建築士協議会
- 10/22 富田林副市長、河南町長面談
- 10/23 大阪府収用委員会
山本尚子氏大臣表彰祝賀会
- 10/24 理事会・正副会長会議
- 10/25 理事会（連合会）
連合会：公益社団法人日本建築士会連合会



(右)北川嗣雄
羽曳野市長



(右)松浦信孝
藤井寺副市長



(右)野田義和
東大阪市長



(左)から、岩井河南町まち創造部長、森田河南町副町長、
武田勝玄河南町長、岡本会長、上田特任顧問、
横関委員、杉原専務理事



(右)松田貴仁
富田林副市長

運営部門

山本尚子氏が国土交通大臣表彰を受賞

元本会理事の山本尚子氏（山本尚・設計工房代表）が10月13日に、第30回住生活月間における国土交通大臣表彰を受賞されました。

国土交通省は毎年10月を「住生活月間」と定めて、国民の住意識の向上と豊かな住生活の実現に向けた啓発活動を行っています。氏は福祉住環境コーディネータ検定一級を取得され、高齢者等の住環境・住まい方の向上改善や女性建築士活動に関する功績を評価されたものです。

運営部門

一級・木造建築士設計製図の試験を実施

平成30年の一級建築士及び木造建築士の設計製図試験が10月14日に全国で実施され、大阪は近畿大学東大阪キャンパスにおいて、本会が試験の実施運営を担当し、一級の受験者は「健康づくりのためのスポーツ施設」の課題に取り組みました。受験者数は全国で、一級9251名、木造316名、その内大阪では、一級775名、木造50名でした。昨年に比べ、一級は全国で319名、大阪で49名受験者が増加し、木造はほぼ昨年並みでした。合格発表は一級12月20日、木造12月6日に行われます。

社会貢献部門

貝塚市と「空家対策に関する協定」を締結

本会と貝塚市は10月15日に空家等の発生の未然防止、流通・利活用の総合的な対策を推進することを目的とした協定を締結しました。

市との協定は、本会及び不動産関係団体等の5団体が同時に締結し、市と連携・

協力し、それぞれの専門分野のノウハウを活かして空家対策を実施する内容です。本会ではインスペクション委員会が中心となり、中古住宅流通市場の活性化等による空家の利活用推進を目指します。



(右)から、全日本不動産協会 長谷川大阪南支部長
大阪府宅地建物取引業協会 辻泉州支部長
本会 岡本会長、藤原貝塚市長
大阪土地家屋調査士会 金子会長
貝塚市シルバー人材センター 勝理事長

社会貢献部門

吹田市において「まちまるごと耐震化支援事業」を実施

本会の耐震委員会は、大阪府に「まちまるごと耐震化支援事業」の事業者として登録しており、今年度は吹田市からの依頼により、9月に吹田市千里丘エリアにおいて木造住宅耐震化ローラー作戦（戸別訪問）を行い、築年数の古い木造住宅約2,500戸に耐震啓発及びセミナーの案内チラシを配布しました。

10月6日に千里丘市民センターにおいて吹田市と共催で開催した「木造住宅の耐震化補助制度セミナー」には、本会から講師及び相談員8名を派遣しました。

日本建築士会連合会

大阪において「日・韓・中建築士協議会」を開催

日本建築士会連合会が主催する「日・韓・中建築士協議会」は、大韓建築士協会、中国全国注册建築師管理委員会の3カ国の建築士団体が、各国の技術発展の促進と相互理解の拡大を目的として、持ち回りで毎年開催しており、今年は大阪で10月17日～20日に行いました。

10月19日の「3カ国の超高層設計」をテーマとしたセッションでは、各国の代表団が聴講する中で、日本からは竹中工務店設計部が「超高層密集都市」と題して、あべのハルカスの取り組みについて発表し、意見交換を行いました。

建築家講演会「空間を語る 秋の夜長の建築の夢」

開催日：平成 30 年 9 月 7 日(金)、14 日(金)、20 日(木) 会場：大阪府立男女共同参画・青少年センター（ドーンセンター）5 階特別会議室
参加者：57 名、54 名、70 名

規工川和史（青年委員会委員長）



三週連続で 2 名の建築家をお招きし、週替わりリレー形式で、話し手・聞き手に分かれ、建築の魅力、空間に対する思いを語りあっていただき、建築の本来の楽しさを再認識するという新しい形の企画でした。モデレーターとして青年委員会の CEN ARCHI 山口千乃委員が担当しました。

初日は話し手に椎名英三氏、聞き手に竹山聖氏が登壇され、椎名氏は自身の設計事例だけでなく、建築・空間を検討する際の考え方や、思考の原点となる書物や言葉などを引用し熱い想いを語っていただきました。その後、椎名氏と親交が深く兄貴的存在だと語る竹山氏が、竹山氏だからこそ見える椎名氏の魅力について語っていただきました。

2 日目は前回聞き手の竹山氏が話し手、聞き手に大西麻貴氏が登壇されました。竹山氏は前回の椎名氏の講演を踏まえ、学生時代から続けている音楽や、絵画の話なども交えながら自身の建築との向き合い方、面白さを語っていただきました。

た。その後、聞き手の大西氏を交え講演内容を振り替わりながら対談いただきました。大西氏にとっては大学時代の恩師でもある竹山氏の事例や考えを伺うことができ、大西氏の建築家を志したきっかけや、学生時代のお話なども伺うことができました。

最終日は話し手に大西氏、聞き手に初日話し手であった椎名氏が登壇されました。大西氏もまた、自身の好きな書物の一文を引用しながら、建築・空間を構成する上での考え方、想いを語っていただき、

現在進行中のプロジェクトのお話しも聞くことができました。前回、前々回とは違い、ほぼ初顔合わせのお二人でしたが、空間に対する考えに共通点があり、時代は進み技術も変化する中でも不変的な空間の面白さが垣間見えました。

三週通して一貫していたことは、それぞれの建築家の空間に対する熱い思いは、建築に対して正直にぶつかった結果であり、もがき苦しんだ先に得られる喜びであることがわかりました。だから、心動かされる。だから建築は楽しい！



椎名英三（椎名英三建築設計事務所）



竹山聖（設計組織アモルフ）



大西麻貴（一級建築士事務所 o+h）

大阪府知事指定講習『建設工事の安全・健康確保講習会①』

日程：平成 30 年 9 月 25 日（火） 会場：大阪府建築健保会館 6 階ホール 参加者：36 名

相原康隆（制度推進委員会委員長）



近年、全国の建築現場において死亡事故を含む重大事故が頻発し建築界において深刻な状況となっており昨年には「建設工事従事者の安全及び健康確保に関する法律」が施行されました。

大阪府と大阪府建築士会はこの問題を改善すべく大阪府知事指定講習「建設工事の安全・健康確保講習会」を本年度 4 回開催致す事になり今回 9 月 25 日に第 1 回目の講習会を開催致しました。

今回、安全に関する大阪府知事指定講習を行うにあたり本会の実施する建築技術者の継続的能力開発（CPD）を活用し安全啓発に取り組む企業を大阪府の入札に関し評価する初の機会となりました。

具体的には大阪府 平成 30 年度 住宅まちづくり部公共建築室発注の建設工事に

おける条件付一般競争入札(実績申告型)において今回の「工事事故防止に関する講習会」（3 単位 / 回）を 1 回以上受講しかつ年間合計 12 単位以上取得した工事配置予定技術者として本競争入札参加した場合、実績評価に 1 点加点されます。大阪府ではこれまでも設計プロポーザルに建築士会 CPD を活用していましたが、工事入札における初の活用事例となりました。

講習会の冒頭 行政からのお知らせとして厚生労働省大阪労働局より近年の工事における事故の増加状況、大阪府まちづくり部より大阪府における CPD の採用などのお話を頂きました。

講習 1 番目「建設災害の現状災害発生と対応」では近年の災害が高齢者だけでは

なく 40 歳代前半が急増するなど重大な問題になった現状や今後安全帯がフルハーネス型になる等の講習していただき、講習 2 番目ではテキストを用いて「元請・下請業者の安全管理実施事項」の講習をして頂き、講習 3 番目の「労働災害の責任の追及」では、ビデオを用いて安全法令において現在の安全帯の使用が認められる場合でも災害が発生し、怪我・後遺症が生じた場合は雇用者の安全配慮責任は免れない状況や災害発生させた企業は発注停止等社会的制裁により業務継続が困難になる等、建築業界において改めて事故などの災害が大きな問題であり、安全に関し僅かな油断も許されない事を改めて認識する良い機会となりました。



東山寮は昭和50年に竣工した京都女子大学の既存寮を改修するとともに、北側に学生寮を増築及び敷地の北西の京都府警渋谷交番を増築棟1階に取り込んだ学生寮である。

増築を契機に計画したリビング・ダイニング・洗面所などの「共有ゾーン」は明るく、オープンな環境に整備し、全体のデザインテーマとした格子を随所に用い、ゆるやかに仕切ることで生活の中で自然とコミュニケーション力が高められる計画とした。

寮生室はベッドの配置によって、増築棟は個人スペースを充実、改修棟は共用スペースを充実する異なる平面構成とした。寮生室や寮生室前廊下の「寝室ゾーン」は静かでリラックスできる落ち着いたしつらえの内装とし、増築棟・改修棟それぞれのテーマカラーを建具・家具・内装材に取り入れた。

外装は増築棟を大学のデザインコードであるレンガ調タイル、改修棟を既存建物の外装を復元し、内部でつながる一棟の建物でありながら新旧の建物が寄り添うような外観とした。

所在地：京都府京都市
用途：学生寮
竣工：2017.03
構造規模：RC造 地上5階
敷地面積：2,308.64㎡
建築面積：1,107.18㎡
延床面積：4,201.14㎡
写真：東出清彦写真事務所・エスエス大阪





ヒトiPS細胞を用いた再生医療製品の生産及び提供を行う、民間事業として世界初の医薬品製造施設である。タイトな事業スケジュールや高いフレキシビリティをはじめ、要求条件を満足するGMP適合生産施設の早期構築に応えるため、1FLを地盤面から1m浮かせた跳ね出し形状の断面計画とし、製造エリアを接地面積最小+有効面積最大のワンフロアで確保して、機能性と合理性の両立を図った。開口部は必要最小限の窓のみとし、諸所の納まりを研ぎ澄ますことで、最先端の再生医療製造らしいモノリシックな外観デザインとした。この施設が再生・細胞医薬分野の発展を先導し、難病を治す全く新しい治療法が生れることを願う。(佐藤達保)

所在地：大阪府吹田市
用途：医薬品工場
竣工：2017.12
構造規模：S造2階
敷地面積：47,841.72㎡
建築面積：1,996.77㎡
延床面積：2,914.73㎡
写真：古川泰造



兵庫県加古川市に位置する集合住宅。クライアントはあたり一帯を所有する地主で、将来は一帯を森にしたい。緑に囲まれた住まいをつくってほしいという要望でした。東側の既存集合住宅と平行にヴォリュームを配置し、2つの建物のあいだに道状のオープンスペースを設け、周囲に分厚い緑地帯をめぐらせました。中央に共用部を配し、各階4つの角住戸と1つのメゾネット住戸からなる構成です。I型とL型の住戸プランを積み重ねて凹凸のある外形としました。比較的大きなヴォリュームを分節し、周囲の緑と内部をつなげる半屋外空間をつくることを意図しています。大きな構造とならないよう、片持ちヴォリュームをスラブにたよらず無理なく支える壁配置を検討し、一般的な断面の構造計画としています。常識的で豊かな生活の場をつくることを考えました。

建築主：株式会社
ミドルビレッジ
所在地：兵庫県加古川市
用途：共同住宅
竣工：2018.03
構造規模：壁式鉄筋コン
クリート造3階
敷地面積：799.55㎡
建築面積：445.23㎡
延床面積：1,136.21㎡
写真：松村芳治



利用者主体の観点から展開された社会福祉活動は、地域との関わりが密接なことから、この新本部がどのように地域に貢献できるかをテーマとしました。構造は木造で、燃えしろ設計を採用し、3階建て準耐火建築物としています。本部という性格上、閉鎖的になる傾向がある中、あえて各階をつなぐ階段を屋外に設置し、利用者や職員の動きを見せる計画とし、地域に施設のアクティビティを表す計画としました。3階大会議室の木造張弦梁の大空間を支える1820mmのグリッドで構成された2階の事務室と1階の児童施設の内部は、まるで小さな森のようで、子供の身体や活動スケールと合い、身近に木を感じ得る空間となっています。

所在地：大阪市東淀川区
用途：児童福祉施設
兼事務所
施工：2018.08
構造規模：木造3階建て
敷地面積：443.32㎡
建築面積：265.89㎡
延床面積：658.13㎡
写真：富田英次

この夏、金沢市郊外の石川県野々市市にある金沢工業大学の建築アーカイヴス研究所を訪ねる機会があった。同研究所に収蔵されている「デザイン・サーベイ」と呼ばれた倉敷や馬籠、琴平や萩などの町並み実測図の閲覧が主な目的だった。高度経済成長下の一九六六年から七一年にかけて、三〇〇枚を超えるこれらの大判の実測図を克明に描いたのは、法政大学非常勤講師を務めていた独立直後の若き建築家の宮脇檀（一九三六〜一九八八年）と学生たちである。

おりしも、二〇一八年は彼の没後二〇年の節目の年に当り、昨年から全国各地で「宮脇檀―手で考える」と題されたドローイング展も開催中だ。そんな中、所長を務める同大学の山崎幹泰教授のご厚意から、原点とも言えるデザイン・サーベイの活動資料に触れられたのは貴重な経験だった。それらの図面からは、失われていく木造の民家と町並みを自らの手で記録しておきたいという熱気のようなものが立ち上がっていた。彼らを急ぎ立てたものとは何だったのか、これらの図面を今展示することで見えてくることも多いのではないかと思えた。

さて、このキャンパスには訪れたことがあり、大谷幸夫（一九二四〜二〇一三年）が長くキャンパス計画に携わっていたことも知っていた。しかし、今回わずかな時間立ち寄っただけだったが、最初に建てられ、一九六九年に竣工した本館の内部に足を踏み入れて、その空間に思わず圧倒された。大谷はここに何を実現させようとしたのだろうか。一九九七年に収録された内井昭蔵との対談の中で、一九六五年に工業高等専門学校を昇格させて大学が開学し、一九六七年にキャンパスの設計を依頼された際のことについて、次のように語っている。

「あの当時は周りは田んぼで、どうやらいいのかなと思いましたが、予算からいうと、教室と先生の部屋の面積が出ていて、それに単価を掛けて終わらないです。それで偉そうに僕はお説教しました。『大学というところは、教室も大切だけど、先生と終生の友だちを得るところだ。これでは大体、雪国で講義が終わった後、雪が降った時などどこへ行くんだ』と。（中略）せめて授業が終わった時にたむろするようなスペースをつくらないと、第一学生が可

記憶の建築

松隈 洋

金沢工業大学本館 1969 年
語りかけ、包み込む骨太な空間



北西側からみた建物外観



ラウンジの内観

研究室へとつながる巨大な吹き抜けのラウンジを設け、この建物を行き来する学生や教員たちが必ず接する共有の空間としての象徴性が与えられているのである。自分の居る場所と行先を感じ取れると同時に、あちこちへと視線が抜け、さまざまな方向から自然光が差し込み、陰影にも富んでいる。そこには、この直前の一九六六年に完成した国立京都国際会館のラウンジやロビーにも通ずる人と人がどのような空間で交流するのかという視点を重視する大谷の考え方

哀想だ。それで（中略）本館では、階段教室を最上階で屋根状に架け渡して、（中略）空洞を内包させたアトリウムをつくった。もう一つの意図は、雪国でしょう、上から光が降りてくるような空間ができないかなと思ったんです。」（内井昭蔵監修『モダン・イズム建築の軌跡』INAX出版二〇〇〇年）

この発言にもあるように、最上部に階段教室を屋根のように差し掛け、その下の中央部に、さまざまな大きさの教室や図書室、

を読み取ることもできると思う。そして、いずれの建物にも共通するのは、空間を構成する構造体によって生み出された骨格の確かさだ。半世紀近く経つこの建物から今も伝わってくる迫力は何に支えられているのだろうか。この本館に始まるキャンパス整備は、一九七六年の三号館と五号館の増築を経て、一九八二年の高層棟のライブラリーセンター竣工で完成を見る。この時、大谷は、自らの中に温めてきた建築像について、次のような文章を記している。

「金沢工業大学の在る野々市町には、今でも、北陸の伝統的な町屋が何軒か残っている。平山忠治さんの『民家』に載っていた喜多さんの家も、この町並の中に建っている。二〇年ほど前、この本を手にしたとき、日本の民家、人びとが生活の中でつくり上げてきた建築が、どういうものであるのかを、改めて思い知らされたことを記憶している。何よりもまず、その構図の確かさや、ものそのものが生き生きとしていることなどを強く印象づけられ、また、建築が周囲の自然や町並と応答している、その呼び掛け合う声が聴こえるような思いがした。（中略）何時の頃からは定かではないが、私の想念の中に固まりつつある建築像は、日本の民家や町並の、こうした生きざまに強く影響されたように思われる。（中略）建築とは、もつと骨太く力強い存在であり、雄々しく言いわけなどしない潔いものだ。建築は、しかし、もつと優しさを湛え、人びとを抱擁する大らかな存在であり、人びとの微妙な情感にも応答する繊細さをも身につけているものだ。」（大谷幸夫「私の中の建築」『建築文化』一九八二年十月号）

この言葉通り、平山の写真集『民家』（彰国社一九六二年）掲載の喜多家住宅（一九九一年）の写真には、高窓から射す自然光で力強く浮かび上がる小屋組が写し撮られている。次の機会には、一九七一年に国の重要文化財に指定されたこの町家を訪ねて、大谷の求めた建築像と、奇遇にも彼の建物に納められたデザイン・サーベイに込められた宮脇の思いに少しでも迫りたいと思う。

松隈 洋

京都工芸繊維大学教授。博士（工学）。一九五七年兵庫県生まれ。一九八〇年京都大学卒業後、前川國男建築設計事務所に入所。二〇〇八年十月より現職。

UR 男山団地での賃貸住宅のリノベーションについては本連載第 27 回で紹介しています。今回はコミュニティ拠点「だんだんテラス」をめぐるこれまでの成果について地域コーディネーターとして関わってきた辻村修太郎さんにご紹介いただきました。

「やってみようからはじめてみる」 八幡市男山地域再生のためのプラットフォームづくりの実践

辻村 修太郎 (つじむら しゅうたろう)

一般社団法人カンデ、八幡市男山地域コーディネーター

1989 年大阪府生まれ。関西大学環境都市工学部建築学科卒、同大学院修了。2012 年より「関西大学戦略的研究基盤団地再編プロジェクト」に所属。
UR 男山団地のコミュニティ拠点「だんだんテラス」の開設に携わる。

はじめに

京都府八幡市男山地域では、平成二十一年一〇月に八幡市、独立行政法人都市再生機構（以下、UR 都市機構）、関西大学の三者が、京都府知事立会いのもと「男山地域まちづくり連携協定」を締結し、様々な主体の協働による地域再生の実践が展開されている。筆者は、その協定の枠組みにおける地域コーディネーターとして、男山地域の再生に向けた様々な取組に参画している。本項では、男山地域再生のためのプラットフォームづくりの実践について報告する。

男山地域は、八幡市の西部に位置し、日本三大八幡宮の一つである石清水八幡宮をいただく男山丘陵南麓の一体に開発された、京阪本線沿線有数の大規模な住宅地である。

UR 都市機構が管理する賃貸集合住宅（以下、UR 男山団地）、京都府及び八幡市が管理する賃貸集合住宅、日本住宅公団（現 UR 都市機構）及び京都府住宅供給公社が建設、分譲した分譲集合住宅とその周辺に位置する分譲宅地を含めた男山地域の人口は、二〇、九九五人（平成二十七年国勢調査）と八幡市全体の人口の約三分の一を占める。

一方、男山地域の人口は平成一二年国勢調査の二五、九二一人から約二〇%減少するとともに、六五歳以上の高齢者の人口が地域全体の人口に占める率が平成一二年国勢調査時の一〇、一%から平成二十七年国勢調査時の三〇、三%に増加したことから、人口減少と高齢化が顕著な地域である。人口急増期の社会要請にに応じてきたものの、人口減少社会を迎え、持続可能な再生が求められている。

男山地域再生に向けた取組

平成一九年に UR 都市機構より公表された再生・再編方針において UR 男山団地は「団地再生（集約型）」に位置付けられた。しかし、団地毎の整備方針の策定は、平成三〇年までに設定されており、UR 男山団地については集約化に向けた具体的な方針が提示されていない状況にあった。一方、八幡市は、男山団地の再生を各施策において重要課題と位置づけて打開策を模索していた。

平成二三年に文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業（平成二三年度（平成二十七年）の採択を受け「集合住宅団地の『再編』（再生・更新）」手法に関する技術開発研究」を行っていた関西大学団地再編プロジェクト（以下、KSDP）は、国内の研究フィールドを探している最中、KSDP の研究メンバーであり、八幡市の住生活基本計画の策定に関与する高田光雄京都大学大学院教授（当時）からの紹介により八幡市とつながることとなり、UR 男山団地において実践的な研究活動に取り組むこととなった。

1 「だんだんテラス」の開設

平成二五年一二月、連携協定の締結を機に三者は、UR 男山団地中央センター地区の空き店舗を活用した「だんだんテラス」（写真 1）を開設した。KSDP が平成二四年に作成した「男山団地再編提案」をもとに平成二五年二月から八月にかけて実施したワークショップやアンケート調査では、住民が「地域に気軽に参加できる場所」を求めていることが明らかとなった。KSDP は、中央センター地区（商業地区）の空き店舗を活用した三六五日オープンコミュニティ拠点の開設を関係主体に提案し、この拠点を男

山地域再生の最初の取組に位置付けた。開設当初は、KSDP メンバーの大学院生が地域情報の収集や住民との関係づくりを行い、平成二六年四月、住民（UR 団地各地区自治会や商店会の有志）、UR 都市機構職員、府職員、市職員、大学関係者で組織する「だんだんテラスの会」を立上げた。日常的に常駐する大学院生は、しがらみのない第三者としての役割、子どもや高齢者の間をつなぐ役割、研究者の卵としての役割を担い、多世代が集うオープンなコミュニティ拠点づくりの根幹を支えている。

2 男山地域再生基本計画の策定

平成二四年一二月、男山地域再生への取組をより具体化させる必要性を認識した八幡市は、「男山地域再生基本計画（以下、再生基本計画）」策定への協力を KSDP に要請し、平成二六年三月に再生基本計画を策定した。

再生基本計画では、七つの基本目標が設定され、その実現に向けた取組のネットワーク化・連鎖化を誘発する方法として「玉突きアプローチ」（図 1）が示されている。地域活性化のまちづくりを進めるためには、単独の事業なり施策を実行するだけでなく、多面的なアプローチが求められる。そのため住民や活動がつながる機会の創出に向けた調整を行う「地域コーディネーター」を配置する手法をとり、より大きな効果を生む支援体制の構築が計画された。

3 「まちの公共員」の配置

平成二六年一二月に京都府は、地域に定着し半公平民の公共的立場を活かして多様な主体との協働関係をつくり、特定の地域課題に対する解決策の創出と推進をマネジメントする「まちの公共員（以



写真2 男山やってみよう会議の様子



写真1 だんだんテラス

下、公共員）を男山地域に配置した。だんだんテラスの会は、再生基本計画においてその必要性が提唱された地域コーディネーターの具現化のため、京都府に対し公共員の配置を希望した。そして、同年一〇月、大学院生時代にKSDPの準研究員としてだんだんテラスの開設に携わった筆者が京都府第一号となる公共員として採用された。

「男山やってみよう会議」の活動

まち開き以降、賃貸団地の自治会が中心となって運営してきた「男山地域連絡協議会」は、男山地域の賃貸・分譲団地及び戸建住宅地の自治会・管理組合が参加する会議体であったが、参加者の高齢化とともに参加負担の軽減を目的として平成二一年に解散に至った。つまり、男山地域には連携のプラットフォームが存在しない状況が続いていた。

公共員は、既存自治組織とは異なる新たな枠組み（図2）で、幅広い世代、様々な立場で地域のまちづくりに関わりたい人が気軽に参加出来るプラットフォームとして「男山やってみよう会議」（以下、やってみよう会議）（写真2）という枠組みを設定した。

やってみよう会議では、積極的に外部の力を利用できるように参加者の居住地については問われていない。男山地域の再生に向けたテーマ型のコミュニティ活動の支援を目的とし「まずやってみる」すなわち、再生基本計画の「玉突きアプローチ」を体现したものである。

やってみよう会議の事務局は、だんだんテラスの会が務めているが、メンバーの主体性を育むことを意図し、各チームのリーダーと事務局による「リーダー会

議」を設けている。「リーダー会議」では、各チームの活動状況を共有し、チームが抱える課題や活動に関わる情報交換を行い、会議の進め方や運営のあり方についても協議して改善を行っている。

四年間にわたる取組を通して、合計で一五のチームが結成された。その中でも「だんだんテラス継承・拡充チーム」は、

四年目に入り、特に積極的な活動をみせている。初年度は、地域の活動団体へのヒアリング調査を行い、自らが取り組みたい活動と地域の現状を照らし合わせながら、今後の活動の方針について議論を深めた。二年目は、他団地の団地再生事例の視察や地域情報誌でのコラムの掲載等、情報の収集と発信に取り組んだ。三年目は、だんだんテラスの駐在スタッフとしての参加、賃貸団地管理に関する意見交換会を開催した。

活動四年目には、UR男山団地A地区自治会から集会所の建替に関する相談を受けた。「集会所の建替をUR都市機構に要望しているが一向に進展しない。何かいいアイデアがないか一緒に考え、働きかけて欲しい」という内容であった。現在は、コーディネート役としてのだんだんテラス継承・拡充チーム、日常的に集会所を利用する自治会や子育て支援団

体、UR都市機構が協働して集会所の改修に向けて検討を行うこととなった。これまで既存の地域自治組織との活動の棲み分けは、参加メンバーの間でも大いに悩んでいた点であったが、実践を通してそれぞれの役割への理解は進みつつあるといえる。

まとめ

様々な主体が協働する地域再生のためのプラットフォームづくりにおいて、第三者的な立場である大学（大学院生）や地域コーディネーターの存在が利害関係にある主体間のコミュニケーションを円滑に進めることにつながった。また、地域再生が具体的な取組へと移行する段階において、誰もが利用出来るオープンな場所（だんだんテラス）と誰もが参加出来るオープンなプラットフォーム（男山やってみよう会議）の設置が、参加者自らが意思決定を行い、実行し、運営する仕組みの構築につながった。この仕組みをもとに、従来の地域自治組織とは異なる、主体性に基づいた地域運営組織への発展と地域コーディネーターをはじめとする専門家による地域運営組織への継続的な支援・関与をどのように担保するか今後の課題である。

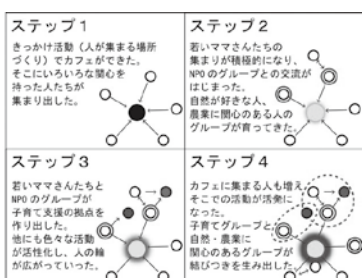


図1 男山地域再生基本計画の実現に向けた取組のネットワーク化・連鎖化を意図した「玉突きアプローチ」のイメージ

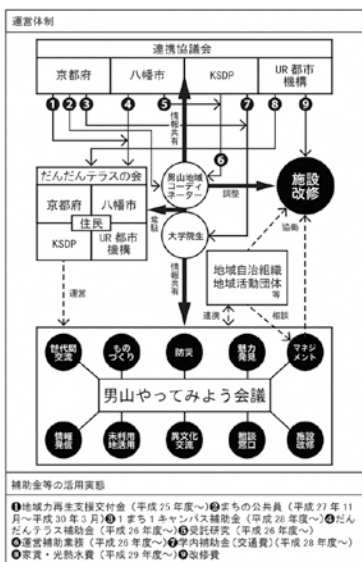


図2 男山地域再生の取組を支える体制と仕組み

大阪府住宅省エネルギー施工技術講習会

平成30年度 国土交通省補助事業 住宅建築技術高度化・展開推進事業

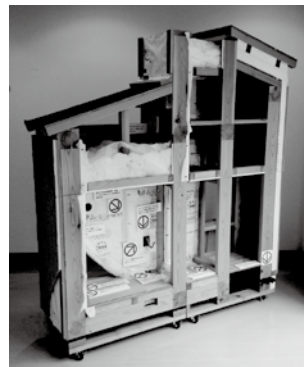
- 国では新築住宅・建築物の省エネ基準への適合義務化を段階的に進めています。
- 住宅取得者は省エネルギー住宅について非常に強い関心を持っています。
- 住宅建設に携わる大工・工務店の方々が省エネルギーに関する正しい知識と技術を身に付けることがこれからの経営戦略上の必須アイテムとなります。
- 講習会では省エネ住宅に関する基本的な事項と施工に際しての留意点についてテキスト、DVDを使ってわかりやすく説明いたします。

※大工、工務店の方々向けの講習会ですが、どなたでもご参加いただけます。

講習会を受講すると……

- ◆ **特典1** 写真・イラスト付きでわかり易くて実務に役立つ省エネルギー技術を解説したテキストがもらえます。(このテキストは市販されていません。)
- ◆ **特典2** 断熱施工の手順・注意点などを収録したDVD(施工編／設備編)がもらえます。
- ◆ **特典3** 修了者には受講修了証が交付されます。(希望者のみ)
- ◆ **住宅省エネルギー講習会の修了者について**

地域型住宅グリーン化各補助対象住宅に関わる事業者にあつては、それぞれ設計者・施工管理者・大工技能者のうちいずれか1人が、住宅省エネルギー技術講習会の修了者であることが必要となります。



※断熱施工模型の説明はございませんが、会場に展示しておりますので自由にお写真をお撮り下さい。

講習会日程(定員各45名)

10月4日(木) 11日(木) 25日(木)
11月1日(木) 8日(木) 15日(木) 22日(木) 29日(木)
12月6日(木) 13日(木) 20日(木)
1月10日(木) 17日(木) 24日(木) 31日(木)

※上記日程のうち半日で参加ください。お申込みはお早目に。

講習会カリキュラム(概要)

12:30から		受付開始
13:00~14:15	75分	開会→講義(基本編)
14:15~14:40	25分	DVD放映(断熱施工)
14:40~14:50	10分	休憩
14:50~16:30	100分	講義(施工編)
16:30~16:35	5分	休憩
16:35~17:25	50分	修了検査・解説・アンケート記入・閉会

講習会費用

受講料	修了証発行手数料(下記のいずれか)	
	不要	+0円
	賞状型	+1,000円
	カード型	+2,000円
1,000円	両タイプ	+3,000円

※講習会当日、受付にて徴収させていただきます。
※お釣りのないようにご協力お願いいたします。
※受講料にはテキスト代を含んでおります。
※カード型・両タイプの方は顔写真データの登録が必要です。

講習会会場

花博記念公園ハウジングガーデン
センターハウス 2階

※会場位置図は裏面を参照下さい。

申込み方法

○下記ホームページからお申込みください。

省エネ講習会 **検索** <http://www.shoene.org/>

→開催月を選択し、日本地図上の「大阪」をクリック
※HPから申込みされると自動返信メールが送信されます。

STEP 1 開催月を選択する

開催月を選択してください

○ 1月

○ 2月

○ 3月

○ 4月

○ 5月

○ 6月

○ 7月

○ 8月

○ 9月

○ 10月

○ 11月

○ 12月

STEP 2 開催エリアを選択する

エリアを選択してください

北海道ブロック

北海道

青森

秋田

岩手

宮城

東北ブロック

山形

福島

茨城

栃木

群馬

北関東ブロック

新潟

山梨

長野

富山

石川

福井

近畿ブロック

京都

滋賀

奈良

和歌山

大阪

兵庫

鳥取

島根

岡山

広島

山口

中国ブロック

香川

愛媛

高知

徳島

四国ブロック

福岡

佐賀

長崎

熊本

鹿児島

沖縄

九州沖縄ブロック

中部ブロック

関東ブロック

○FAXの場合は裏面の申込書に必要事項をご記入のうえ、下記の大阪住宅センター宛に送信してください。申込み確認後、FAXにて返信いたします。

【主催・問い合わせ先】

大阪府地域産材活用フォーラム 事務局 一般財団法人大阪住宅センター 西山あて
〒542-0081 大阪府中央区南船場4-4-3 心斎橋東急ビル4階 電話 06-6253-0252 FAX 06-6253-0145

第11回 建築人賞

主催：公益社団法人 大阪府建築士会

第11回建築人賞の審査委員長は、乾 久美子氏に決定いたしました。

公益社団法人大阪府建築士会では
本誌「建築人」の Gallery に掲載された建築作品を対象に
社会性、芸術性、時代性を考慮して、顕彰、公表することにより
建築技術の進展、建築文化の向上に資することを目的として
建築人賞を実施しています。

■ 審査委員長 乾 久美子



1969 大阪府生まれ
1992 東京藝術大学美術学部建築科卒業
1996 イエール大学大学院建築学部修了
1996～2000 青木淳建築計画事務所勤務
2000 乾久美子建築設計事務所設立
2000～2001 東京藝術大学美術学部建築科常勤助手
2011～2016 東京藝術大学美術学部建築科准教授
2016～ 横浜国立大学大学院Y-GSA教授

■ 表彰（設計者に対して）

建築人賞（賞状と記念盾）

建築人賞奨励賞（賞状）

※建築主・施工者には賞状授与

■ 第11回 対象作品

「建築人」2018年1月号から2018年12月号まで
Gallery に掲載された建築作品

※建築種別、建築地を問わない。但し、竣工検査済証を受けたもの

■ 審査方法（未定）

■ 受賞発表

建築人2019年7月号誌面（予定）

■ 問い合わせ

公益社団法人大阪府建築士会「建築人賞」係
担当／母倉 政美
TEL 06-6947-1961 FAX 06-6943-7103



建築人賞 記念盾 「未来へ！」

ガラスアーティスト 三浦啓子作

『建築人』 Gallery 掲載作品 募集中 2018

会報誌『建築人』では、Gallery に掲載する作品を
募集しています。

【掲載料】

カラー 2ページ 20万円

カラー 1ページ 10万円

詳しくは、公益社団法人大阪府建築士会『建築人』
Gallery 建築作品掲載係まで。

理事会報告

文責 本会事務局

日時 十月二十四日（水）十六時～十八時
場所 本会会議室

出席 理事三四名 監事二名

（１）九月の当期経常増減額は、収入八、七三八、二三〇円、支出九、六九六、九三五円、差引△九五八、七〇五円で、本年度累計の収支差引二八、四三九、二四六円を報告して承認されました。

会費およびCPD登録費は予算比一〇〇％前後で順調な収入状況ですが、前期を終えて各事業ともに予算達成率は低い状況を報告しました。

建築士試験は終了しましたが委託費精算途中であること、登録事業は二月～一月の登録期間を待つこと、他の受託事業も精算時期尚早であることから、年度末に掛けて予算額に近似するものと予測しています。特に研修系二二条講習および既存住宅状況調査技術者講習の受講者減による減収が大きい状況です。

耐震評価業務は予算比一〇九％で、後期も件数増の見込みです。

公益目的事業の収支規模が予算比五四％の充足で、全体では約二七百万円の黒字に推移していますが、各部門において後期の事業推進に係る予算収支の再確認を行うこととしました。

（２）第六三回大阪建築コンクールに際して、建築表彰部門から、審査委員長を松隈洋氏（京都工繊大）、委員に鉾井修一氏（京都大）、橋本一郎氏（エス・キューブ・アソシエイツ）、松岡聡氏（近畿大）、松田浩三氏（大阪府）の推薦があり、応募要領と合わせて承認しました。

建築相談室から三十一

災害時の対応 二

文 橋本頼幸

先月に引き続き、今月も六月に発生した大阪北部地震に関する本会の建築相談室の対応をまとめます。

地震に関する相談が落ち着くまで

地震発生日の六月十八日から八月末までの相談電話件数の推移を図1に示しますが、概ね一ヶ月を経過したあたりで相談件数が落ち着いてきます。ただし、六月末から七月頭にかけても西日本豪雨、七月初旬から酷暑と自然災害が連続して、地震の報道も一気に減少し、世の中の関心が他に移っているようにも感じました。図1にはブロック塀に関する相談件数・現地相談受付件数も表示しています。ブロック塀相談件数は大阪府からの要請に基づいて本会に寄せられたブロック塀に関する相談件数を事務局でまとめたものです。これからの地震発生後三週間の豪雨の頃からブロック塀の相談件数・現地相談件数は少なくなってきました。災害発生時の相談室の機能

初動から相談内容・件数が安定するまで一定の相談機能は果たせたと考えられ、電話件数から見ても現地調査実績から鑑みても多くの相談者のよき隣人であったことは間違いないと思います。一方で課題も見られました。私の感じた課題を以下の通り整理します。

① 現地相談をトリアージするべきだった。ブロック塀に焦点が集まってしまったが、本来ブロック塀の確認は建築士が行ってもできることはほとんど無い。専門家が行くべき案件を優先して現地相談対応をしても良かったと考える。

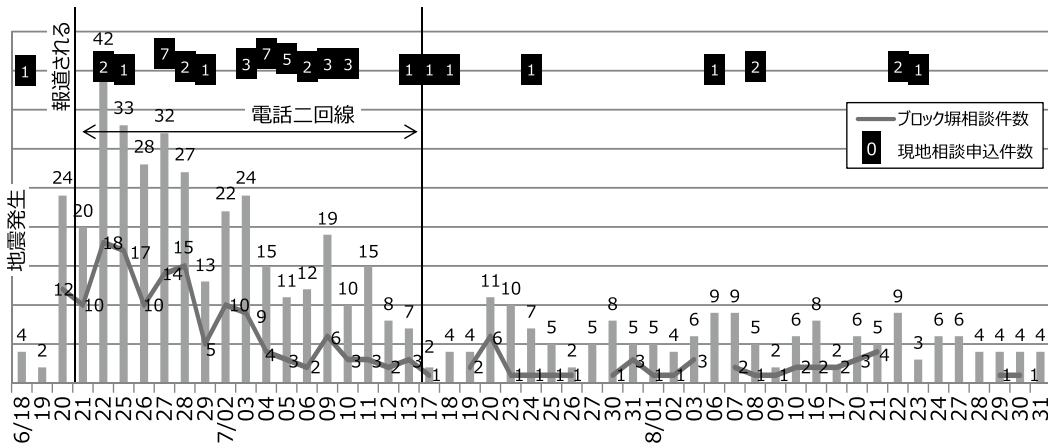


図1 地震発生から8月末までの相談件数の推移

② 本会での相談は業者の紹介や電話以外の相談を無償で受けるところではないことを行政・マスコミに徹底するべきだった。

③ 大阪弁護士会との協定（昨年三月締結）があるにもかかわらずお互いが独立して動いてしまった。迅速に弁護士会と協同して相談対応にあたっても良かったのではないかな。

編集後記

若江直生

地震、豪雨、台風と今年はいくつかの災害に見舞われ、特に九月の台風二一号では暴風により甚大な被害が発生しました。被災された方々が一日も早く穏やかな日常に帰られますよう、また亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。昨今の自然災害においては想定外が当たり前のように起こります。安心安全な建築を実現するために、設計でどのレベルまで対応すべきなのかは、コスト面や大きな災害の頻度を鑑みると、発注者、設計者にとっては非常に難しい問題であると感じています。建物の用途や性格により条件は異なりますが、目の前の設計を通じて、発注者と共に考えていきたいと思います。

様々な世代、多様なメンバーで構成される建築情報部門の編集委員に、私も本年一月より参画させていただいています。建築人の編集に携わることで日々の設計とは異なる刺激を頂ける良い機会と捉え、建築士会会員の皆さんにも新たな刺激を与えられるような雑誌となるよう、努力して参りたい所存です。

建築人 11 2018

監修 公益社団法人大阪府建築士会
建築情報部門

編集 建築情報部門『建築人』編集部

部門長 飯田英二

委員長 牧野隆義

編集人代表 荒木公樹

編集人 河合哲夫 北 聖志
曾我部千鶴美 橋本頼幸
丸子勇人 茂籠一之
若江直生 母倉政美

事務局 山本茂樹

印刷 中和印刷紙器株式会社



淡路瓦イズム

『受け継ぎ拓げる』

株式会社タツミ

<http://www.tatsumi-garou.com/>

取材：河合哲夫／建築情報部門委員

400年の歴史を持つ淡路瓦は「淡路瓦イズム」を通し、これからの時代に社会から必要とされる瓦づくりに挑戦を続けています。今年も淡路瓦イズムを実践している会社を紹介します。

日本三大瓦の一つ淡路瓦は、淡路島南端の南あわじ市を中心に、静かで美しい風景の中で、現在はおおよそ70社の生産者が瓦づくりを行っています。

瓦の語源は、サンスクリット語で皿、鉢、頭蓋骨を意味する迦波羅力パーラ /kapala からとされる他、甲冑（伽和羅かわら）、亀甲（加宇良こうら）、屋根の皮（かわ）、土器（かわらけ／土から「カワレ」ことを意味する）等、諸説あるようです。いずれも物質を覆うことでそれを保護する殻のような材料というところが共通しており、古くから私たちの生活とともにあったことが伺われます。

「瓦」は、現代では屋根瓦のイメージが一般的ですが、甍（せん）・壁（へき）と呼ばれる床、壁を仕上げる材料としても使われてきました。日本に仏教とともに伝わったとさ

れる飛鳥時代においてもそうした使用がされていたことがわかっています。また、茶道においては、風炉とともに「敷瓦」や「前瓦」を使いますので、瓦は、その性能を活かした内外装材から言わばインテリア小物まで、日本の生活様式に欠かせない、まさに様々な物質を保護する素材として使われ、日本人の美意識の形成に大きな影響を与えてきたと言えるでしょう。

今回紹介する株式会社タツミは、鬼瓦や棟瓦を主力とする生産者ですが、淡路瓦の美しさと鬼瓦をひとつひとつ丹精につくりあげる技術力、一品生産から大量生産まで対応できる柔軟な生産性を活かして、内外装や外構の仕上げ材、家具やインテリア小物、記念品まで、瓦を現代のデザインやニーズに合わせることで、用途を拡大する取組みを続けてられています。多くのアイテムの開発を精力的に手掛けて来られていますが、その中でも特にエクステリア向けの「イブシブロック」は、燻し瓦の簡素で洗練された素材感がモダンなデザインにフィットする素材として、多くの建築家やデザイナーに受け容れられ、年間1

万個の生産をするまで拡大しているとのこととです。

また、淡路島出身の著名プロダクトデザイナーと淡路瓦三社とがコラボレートする新しいプロジェクトも進行中。株式会社タツミでは、瓦と木を組み合わせた家具を担当されるということで、現在試作に向けて準備を進められており、来年の販売を目標に取り組まれています。詳しい発表は、もう少し先になるのですが、新たなチャレンジをやや興奮気味に語られる興津常務取締役の眼差しに、期待が高まりました。瓦の可能性を拓ける挑戦はまだ続きます。

株式会社タツミの数々の魅力的な製品達は、よく整備された同社のホームページで見ることができます。

■淡路瓦のお問い合わせ先
淡路瓦工業組合
兵庫県南あわじ市湊134
Tel.0799-38-0570 Fax.0799-37-2030
info@a-kawara.jp
<http://www.a-kawara.jp/>





飾磨の家 大西憲司

敷地は、姫路城の南部にある住宅地の東・北に道路がある角地に位置する。隣家が迫る南側を閉じ、開放されている北側角地に植栽スペースと玄関アプローチを配置した。1階は、東側道路沿いに要望である車2台と駐輪のオープンな車庫、中庭に面して主寝室を設けた。2階は、中庭を中心に東側にリビング、西側にダイニング・キッチンを配置した。それぞれ、変化のある天井がやさしく包み込み、光と風がやわらかく充満し、気持ちのよい空間となる。リビングの北側を大開口にして、角地に設けた植栽やデッキテラスを介して、積極的に街並みへと繋がり、抜けによって拡がりを感じられる空間の中で、楽しみながら居場所を見つけていく。

撮影：福澤昭嘉 第10回建築人賞奨励賞受賞作品



■プロフィール

大西憲司

1948年大阪府生まれ／1971年近畿大学理工学部建築学科卒業／設計事務所勤務の後、1998年大西憲司設計工房設立／2002年「御領の家」で大阪建築コンクール大阪府知事賞、2004年大阪都市景観建築賞大阪府知事賞／2005年「戸建の木の集合住宅」で大阪建築コンクール大阪府知事賞／「桜の家」で大阪都市景観建築賞大阪府知事賞受賞

■建物データ

設計：大西憲司設計工房
施工：笹原建設
所在地：兵庫県姫路市
用途：専用住宅
竣工：2016年10月
構造規模：木造（在来工法）
地上2階
敷地面積：94.64㎡
建築面積：60.79㎡
延床面積：112.37㎡